

松谷武判・藤本由紀夫

2020 年 11 月 14 日(土) – 12 月 25 日(金)

世界を舞台に広く活躍し、関西にも深いゆかりのある松谷武判氏、藤本由紀夫氏の二人展を開催します。

松谷武判氏は、戦後間もなく開発されたビニール系接着剤と、その表面に重なる黒鉛の繊細な光沢から、物質



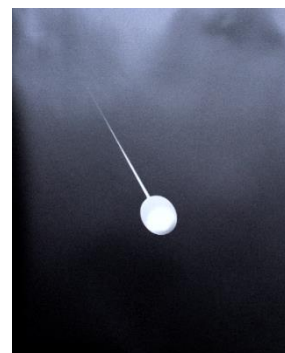
松谷武判《円 2000-1》2000 年、ビニール系接着剤によるレリーフ、鉛筆、カンヴァス 291 × 197 cm

そのものが成す有機的で官能的なフォルムと質感を生み出し、新しい絵画の可能性を示してきました。また、2019 年パリ・ポンピドゥーセンターでも個展が開催されるなど近年、世界的にその評価が高まっています。一方、藤本由紀夫氏は 70 年代から電子機器を用いたパフォーマンスやインスタレーションを展開。鑑賞者が全感覚で積極的にアートと関わることが要求される「音」を鍵とした制作を続け、2 度のベネツィアビエンナーレ出品を果たすなど、世界的に高い評価を得ている作家です。

本展は、一見全く異なる二人の表現を“リズム”をキーワードに展覧会を構成することで、松谷氏の制作の動作から生

じる鉛筆のストロークや振動など、視覚から観る者に訴えかける“リズム”と、藤本氏の作品が直接的に奏でる聴覚としての“リズム”を

結びつけ、日本の美術を牽引し続ける二人の共通項を見出すことによって、それぞれの新たな側面を紹介しようとするものです。是非ご高覧下さい。



藤本由紀夫《top522018》2018 年
印画紙 40.6 × 50.8 cm

【略歴】松谷武判

1937 年大阪市生まれ。1960 年、松谷武判は戦後間もなく開発されたビニール系接着剤を使い、物質そのものが形作る有機的なフォルムを取り入れたレリーフ状の作品を発表。画面の上に膨らんだり垂れたりしている官能的な形と質感は、新しい絵画の可能性を示すものとして高く評価され、吉原治良に認められて具体美術協会（具体美術協会：1954 年兵庫県芦屋で結成）のメンバーとして制作を始めます。29 歳でフランス政府給費留学生として渡仏、その後パリのアトリエを拠点に、一貫して黒と白の世界を描き、活発な発表を続けている。

【略歴】藤本由紀夫

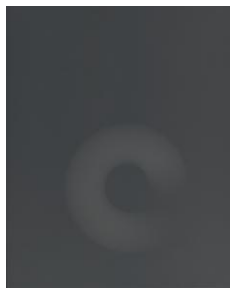
1950 年名古屋生まれ、大阪市在住。「音」を「かたち」に捉えたサウンド・オブジェを中心に、人間の知覚を喚起する作品の数々を発表する。自身の作品を通して発見されうる外界の新たな認識手段を、鑑賞者それぞれの感覚へ委ねるという藤本作品に共通するその姿勢は、作品そのものから鑑賞者を巻き込んだ空間へと波及していく。インスタレーションやパフォーマンス、ワークショップを通じて、空間における「音」の体験から新たな認識へと開かれていくような活動を展開している。



松谷武判《直線-2000》2000年、ビニール系接着剤によるレリーフ、鉛筆、カンヴァス 197×291cm



松谷武判《門-1》2020年
ビニール接着剤、黒鉛、紙に紙のコラージュ
23.7×24.2 cm



藤本由紀夫
《top332018》2018年
印画紙 19.49×24.55 cm



藤本由紀夫
《top142018》2018年
印画紙 19.98×24.4 cm



藤本由紀夫
《top012018》2018年
印画紙 20.3×25.4 cm

会 期 2020年11月14日(土) - 12月25日(金)

休 廊 日 日・月曜日

開 廊 時 間 11:00 - 13:00 / 14:00 - 19:00

★ 本展はクロージングパーティーを開催致します。

日時：12月19日(土) 16:00 - 18:00

作家：松谷武判氏、藤本由紀夫氏も在廊致します。

所 在 地 〒650-0022 神戸市中央区元町通 3-9-5-2F

問 合 せ TEL: 078-391-1666 FAX: 078-391-1667

MAIL: info@gyfa.co.jp

ア ク セ ス JR・阪神 元町駅 西口より徒歩 1 分

料 金 無 料



※新型コロナの状況によっては開廊時間が異なることもございますが、御了承下さい。

プレスに関するお問い合わせ 電話：+81(0)78 391 1666 メール：info@gyfa.co.jp 担当者：中野